令和5年度第4回西淀川区区政会議

1 開催日時：令和6年3月13日（水）午後6時30分～午後8時30分

2 開催場所：西淀川区役所5階 会議室

3 出席者の氏名：

（委員：敬称略、50音順）

麻井、伊関、今前田、浦中、大垣、大西、岡崎、岡本、川寄、倉方、竹内、多田、
田中、寺脇、西垣、平林、藤江、藤田、藤波、松岡、矢口、吉見

（事務局：西淀川区役所）

中島区長、難波副区長、奥本総務課長、岡田政策共創課長代理、近藤地域支援課
長、木村安全まちづくり担当課長、松本窓口サービス課長、貴志保健福祉課長、
横内こども福祉担当課長、青木保健主幹、山城生活支援担当課長、小林地域支援
課係員

（市会議員）

佐々木哲夫議員、山田はじめ議員、山田かな議員

（府議会議員）

中川誠太議員

4 議題

（1）令和6年度西淀川区運営方針（案）について

（2）令和6年度西淀川区関連予算（案）について

（3）その他

5 議事内容

○大垣議長

こんばんは。それでは、ただいまから第4回区政会議を開催いたします。

事務局から、本日の議事進行の説明をお願いいたします。

○岡田政策共創課長代理

では、始めさせていただきます。政策共創課長代理の岡田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の会議は現時点で21名の参加であり、定員27名の過半数を超えていることから、会議が有効に成立していることを確認、報告させていただきます。

次に議事進行についてですが、議題は、1つ目としまして、令和6年度運営方針（案）について、2つ目が令和6年度西淀川区関連予算（案）について、3点目がその他、以上3つを予定しております。

続きまして、お手元に配付しております資料の確認を行わせていただきます。

資料1としまして、配席表・委員名簿、資料2としまして、「運営方針（案）の考え方」、資料3でございますが、「令和6年度西淀川区関連歳出予算（案）の概要」、資料4としまして、「被災地から学ぶ今後の防災について」、資料5でございますが、「新たな『西淀川区将来ビジョン』の策定について」、資料6、「区政会議や区の実取組に関するアンケート」、それから参考資料としまして「令和6年度西淀川区運営方針（案）」、それから、これも直近のものでございますが「西淀川区将来ビジョン」、そして「にしよどがわシーサイド桜まつり」のチラシでございます。不足等ございませんでしょうか。

なお、資料6のアンケートでございますが、区政会議運営等について、皆様からご意見をお伺いし、今後の改善に役立ててまいりたいと考えております。お手数ではございますが、会議終了後、お帰りになる際にご提出をいただきますようお願い申し上げます。

本日の区政会議の開催状況につきましては、ホームページや広報紙等で報告を行わせていただきます。会議の様子がよりよく伝わるよう、また記録のため、会議中、写真を撮らせていただきます。

また、前回の区政会議にてお知らせしましたとおり、今回から会議の様子を西淀川区役所 YouTube チャンネルでライブ配信をしております。

以上、ご了知のほどよろしく願いいたします。

○大垣議長

それでは、議事に先立ちまして、区長からご挨拶をよろしく願いします。

○中島区長

どうも皆さん、こんばんは。西淀川区長、中島でございます。

本日はお忙しい中、そしてまた夜遅くに、そして寒い中、この会合にご出席賜りまして、誠にありがとうございます。

本日の会議ですが、大きく2点でございます。1つは来年度の区政の運営方針についてでございます。これは、前回の会議で説明させていただきまして、皆さんからご意見頂戴しましたので、そのご意見を反映したところを中心に、簡単にご説明をさせていただきたいと思っております。

もう1点でございますが、今年の1月1日に発生しました能登半島地震、非常に災害、大きな被害が出ておりまして、皆様も大阪で起こったらどうやろうなと思っておられるかと思しますので、私ども、避難所の運営等で現地のほうに職員を派遣しております。その人間が初めて気づいたことだとかというお話を簡単にさせていただいた後に、皆さんで活発に議論いただければなと思っております。また、議論いただいた内容は、それぞれの地域の防災担当者会議などでもご披露させていただきたいなと思っておりますので、ぜひ皆さん、お気づきの点、十分に議論いただきますよう、よろしく願いいたします。

本日はどうぞ皆さん、よろしく願いいたします。

○大垣議長

ありがとうございました。それでは、第1号議案の令和6年度の運営方針について、区役所から説明をお願いいたします。

○岡田政策共創課長代理

それでは、説明をさせていただきます。本方針の策定に向けての考え方につきましては、前回、昨年12月20日開催の第3回区政会議において示させていただきました。本日説明する方針（案）については、基本的に前回の説明内容の骨子を変えずに案を作成し、2月に公表しているものでございます。

今回の区政会議で案の内容をお示しし、委員の皆様からのご意見を反映させて内容を固めていくこと、一方で、前回の説明内容といたずらに重複するなど冗長な内容とならないことを留意する観点から、概要は通しで説明させていただきますが、特に変更があった箇所を強調して説明をさせていただきますことを、ご了解賜りますようお願い申し上げます。

では、資料2でございます。まず冒頭の区の目標につきまして、「活気があり、笑顔があふれ、常に進化するまち」であります。その下の「住みたい」「事業したい」に加えまして、今回からは「選択されるまちへ」という言葉を追記しております。住民の方、生活者の視点というのは、どのような施策を進めるに当たって基本的、根源的なことであることは申すまでもありませんが、加えて在勤の方、区内で働く方、企業等の経営層、自営事業者さん等々、事業活動を行う方へしっかりと目を向け、選択されるまちとしての施策を実行してまいります。

このことにつきましては、次のページでございますが、経営課題1ともリンクしてまいります。2ページ目でございます。大阪・関西万博の開催意義であります「SDGs推進、達成」に加えまして、健康寿命の延伸、とりわけ健康ナンバー1を目指します。

具体的には、がんへの理解といったことですが、がんリテラシーの向上、区内企業の健康経営の推進などございまして、既に一部はウェルビーイング西淀川、これは企業・団体と連携事業者、区役所と多様な主体で健康や幸福等を主なテーマで考える仕組みでございますが、そこでの議論をきっかけとして具体的なプロジェクト

も一部でございますが進められております。今後も官民連携を超えて、新たな価値をともに創造する官民共創を進めてまいります。

経営課題2としまして、「こどもたちがいきいきと育つ環境整備」ということで、次のページでございます。スクールカウンセラーの配置、個別のカウンセリング、こどもサポート事業との連携等の体制整備を明記しております。また、いじめ・不登校だけでなく、これらに加えてヤングケアラーなどの問題の早期の発見、対応を図ります。過去に子どもに直接届く支援政策のあり方、スクールカウンセラーの活動に関すること、またヤングケアラー支援等についても喫緊の社会課題であるとともに、特段の配慮が必要な点についてご意見がございました。今回の追記の内容等は、それらのご意見を踏まえさせていただきました。

○事務局

プロジェクターが映るように照明を落とさせていただきます。

○岡田政策共創課長代理

その次の経営課題3でございます。3ページ目です。「地域コミュニティの機能向上」についてでございますが、地域を基盤とした人と人とのつながりの大切さは変わらない一方、時代とともに人々の価値観の多様化や人とのつながりなど行動変容が進む中、地域活動の担い手不足、人材不足の懸念がございます。本課題については、過去に子育て層の方が参加できる環境づくりが必要というご意見を頂戴いたしました。マンション着工エリアでの町会加入促進対策の検討など戦略的な働きかけを進めてまいります。

続きまして、経営課題4、「防災力の強化」についてでございます。災害等、有事の際の迅速な避難行動の開始のためには日頃の備え等が必要であるところがございます。単独では避難が困難な方もおられます。個別避難計画の必要性について理解を深めるとともに計画の着実な作成が必要となっております。本課題につきましては、以前に、要支援者の避難行動、若年層への防災講座の必要性についてご意見をいただ

きました。地域、福祉専門職との連携はもちろんのこと、加えて若年層の関わりも意識し、学校との連携、また地域で事業をしておられる企業のご理解とご参画をいただくことも重要でありまして、これらの連携策を総合的に進めてまいります。

最後に経営課題5でございます。次のページに参ります。「誰もがいきいきと暮らせる温かいまちづくり」についてでございます。日々の暮らしにおきまして、日常生活に関わる問題について、福祉的な観点から各相談機関等の連携の仕組みに加えまして、職員の福祉力、気づく力の向上、強化が重要となっております。関係機関と職員による学習会、連絡会、様々な研修などを、地道に着実に取組を進めてまいります。

なお、経営課題3、4、5と共通するところですが、SOSを出せない方や、コロナ禍でのある意味、分断によって関係が切れてしまっている方への支援についてのご意見がございまして、関係する課題において可能な限り意見を反映させていただきました。

ちょっと関連でございますが、事前にご質問いただいている内容を簡潔に説明いたします。

経営課題1に関しましてですが、ウェルビーイング西淀川についてのご質問がございました。こちらについては、先ほど申しましたように、多様な民間との連携によりまして、ワークショップ等を進めて施策を進めているところでございます。そちらにつきましましては、がん検診の受診率向上でありますとか、緑陰道路の活性化といったテーマで一部、具体的に沿道活性化等のプロジェクトも進めたものがございます。

また、経営課題2に関しまして、学校選択制について良かった点等についてもお尋ねがございました。良かった点としては、ご自身で進学する学校を選ぶことができるようになったことで学校への関心が高まったこと等でございます。学校選択制の問題点としては、児童生徒数の減少によりまして学級等で課題が生じている学校がある等の部分がございます。

経営課題4について、防災力の強化と多様性への配慮についてお尋ねがござい

した。こちらにつきましては、トイレの設置場所や脱衣場等において、配置のレイアウトを検討したほか、プライバシーテント等の追加購入等をしております。引き続き、そういった多様性に配慮した施策を進めてまいります。

経営課題5に関しまして、ボランティア活動に関する良かった点、課題点等についてお尋ねがございました。これについて、この事業で「ちょっとボランティア」制度というものがございまして、それについても活動を行う側の声としましては、子どもの成長を感じることができる充実感があるとか、逆に受ける側としましては、認知症等でコミュニケーションを取ることができない方が、歌を通して気持ちを感じることができて良かった点などもございます。そういった内容で回答させていただきます。

以上、運営方針（案）についてご説明を申し上げます。

○平林委員

ちょっとお聞きしたいんですけど、よろしいですか。

○大垣議長

質問はちょっと待ってください。もう一つ次の議題がありますので、それを終えてからね、質問。

○平林委員

はい、分かりました。すみません。

○大垣議長

よろしく。

ありがとうございました。今の議題で質問がもしありましたら、次の予算の議題をやってから一括で受けたいと思いますので、ちょっと待ってくださいね。

それでは説明を区役所からよろしく申し上げます。

○奥本課長

それでは、総務課長の奥本でございます。私から資料3、右肩に資料3と書いておりますけれども、令和6年度西淀川区関連歳出予算（案）の概要をご覧くださいませ

して、説明させていただきたいと思っております。

1枚めくっていただきまして、左側、予算項目といたしまして、区長自由経費（区まちづくり推進費）とありますけれども、こちらは区役所で実施する予算で、区長が主体となって実施する予算となっております。令和6年度は4億713万円、次に、区CM経費でございますけれども、こちらは区長（区シティマネージャー）が決定権を持つ局予算でありまして、局が主体となって実施する予算、例えば道路や公園の維持、補修などに係る予算となっております。令和6年度は5億1,186万円、合計といたしまして9億1,899万円となっております。

事前に区政会議委員さんから質問をいただいております。この区シティマネージャー経費の内容が分かる資料につきまして共有いただけないでしょうかという質問をいただいております。こちらにつきましては、西淀川区役所ホームページ、令和6年度予算事業一覧の公表におきまして、区シティマネージャー自由経費予算事業一覧というものを公表しております。ホームページに公表しておりますので、こちらをご参照いただければと思っております。

次のページでございます。こちらは区長自由経費事業費一覧でございます。区長自由経費全体から、区庁舎及び区役所附設会館の維持運営費や、一般事務費を除いた事業費、合計1億3,051万円の中で、右側に書いておりますけれども、右側の①から⑨の施策分野ごとの事業費が占める割合を円グラフで示しております。

次のページでございます。令和6年度の予算額を5年度と比較しまして、施策分野ごとにその増減を説明している資料でございます。①の新たなつながりを創出し、人と人の絆を大事にするまちづくりでは、令和6年度予算額5,493万円で、令和5年度から340万円増加をしております。主な増減理由を右欄に記載しております。契約内容の見直しによる委託料の増となっております。

次に、②多様な活動主体との連携による地域活性化とまちの魅力向上では、令和6年度予算額433万円で、令和5年度から132万円の減、消耗品費等の見直しの減とな

っております。

次に、⑤安全なまちづくりの推進では、令和6年度予算額が1,282万円で、令和5年度から312万円の増。主な理由といたしまして、防犯カメラ買替による機械器具費の増となっております。

次に、⑨区民ニーズに応じた区政運営では、令和6年度予算額が2,285万円で、令和5年度から137万円の増、物価高騰による印刷製本費の増となっております。

次のページでございます。⑩区役所附設会館管理運営では、令和6年度予算額が4,234万円で、5年度から403万円の減。主な理由といたしまして、新型コロナによる減収補填分による委託料の減となっております。

次に、⑪区庁舎設備維持経費では、令和6年度予算額が8,830万円で、5年度から259万円の減。主な理由といたしまして、大会議室空調設備修繕の減、森林環境譲与税を活用した庁舎設備の委託料の増となっております。

次に、⑫区役所運営事務経費等では、令和6年度予算額は1億4,598万円で、5年度から1,815万円の増。主な理由といたしまして、万博機運醸成の取組による委託料等の増、また、行政キオスク端末導入など新規事業による委託料等の増となっております。

ここにつきまして事前に区政委員さんからご質問いただいております、この万博機運醸成の取組による委託とか、住民票発行手数料のキャッシュレス化、住民情報待合への行政キオスク端末導入による利便性向上事業の具体的な内容を教えていただけないでしょうかというご質問をいただいております。

万博機運醸成につきましては、大阪関西万博の成功に向け、万博のテーマなどを分かりやすく周知し、万博に対する興味や関心を高めるため様々な取組を実施しております。その中で、委託料を計上している主な取組といたしまして、万博のテーマに関連するアートを取り入れた西淀川アート事業やSNSを活用した万博共創チャレンジに登録している各種事業などのPR動画の作成、またこどもたちへの新技術、VR

などの体験などを考えております。

また、住民票発行手数料のキャッシュレス化につきましては現金だけではなく、クレジットカードや電子マネー、バーコードでの決済もできるよう、窓口で住民票、印鑑証明、戸籍等の証明書発行手数料の支払いにセミセルフレジを導入いたします。導入時期、開始につきましては、令和6年11月を予定しております。

また、住民情報待合への行政キオスク端末導入につきましては、今後のコンビニ交付の利用を促進し、待ち時間短縮、混雑を緩和するため、区役所1階の待合に行政キオスク端末を設置してまいります。運用開始につきましては、令和6年9月を予定しております。

次のページ以降につきましては、施策分野の事業ごとの増減を示した資料を参考にお付けしております。この中で8ページでございますけれども、⑧健康で住みなれた地域で生き生きと暮らせる環境づくりにつきまして、事前に区政委員さんからご質問いただいております。健康づくり推進事業とか、健康推進事業用経費とはどのような活用をされているのでしょうかということでございます。健康づくり推進事業につきましては、喫煙率の減少と受動喫煙の防止のため、区内医療機関と連携し、小学生を対象に喫煙防止教室を開催してまいります。予算につきましては、啓発用リーフレット等の作成経費でございます。また、健康推進事業用経費につきましては、保健福祉課健康推進担当における事業運営を円滑に行うための必要最小限の事務用品や出張旅費等の事務経費となっております。

令和6年度西淀川区関連の歳出予算の説明につきましては以上でございます。

以上、よろしく願いいたします。

○大垣議長

ただいま運営方針と予算案を事務局から説明してもらったんですけど、これに対してご質問よろしく願いします。

それでは、先ほど言われた方、お名前を言ってくれますか。

○平林委員

西淀川区柏里3丁目商店街のサザンカストリートの責任者であります、平林と申します。

この会合にこの間から寄せていただいていますけども、確かに今の時代、この横文字が非常に増えてきていることは私も承知しているんですけど、今回、先ほどあった令和6年度運営方針（案）で、ここの主な戦略としておられる、上から4行目の「区民のがんリテラシーの向上」という言葉を、申し訳ないんですが、私、ちょっと理解していないのでご説明いただければと思ひまして。

以上です。

○岡田政策共創課長代理

ご質問ありがとうございます。「がんリテラシー」という概念、確かにおっしゃるような全国ですごく広がっているかということ、そうではありませんでして、要は日頃からがんの備えをする、いざ例えばがんに罹患したときに急に慌てないようにするため、普段から理解を高めておくという、そういう概念でありまして、日本対がん協会というところが周知・啓発している概念でございますので、それを皆さんにつけていただくという趣旨で「がんリテラシー」という表現を入れております。

以上でございます。

○大垣議長

よろしいでしょうか。

○平林委員

ありがとうございました。

○大垣議長

それでは、続きまして第3議案について区役所から説明をお願いいたします。

○岡田政策共創課長代理

令和6年能登半島地震により甚大な被害を受けた被災地を支援するため大阪市から

職員の派遣を行っております。西淀川区役所からも職員が派遣されております。ここからは実際に現地で支援活動を行った職員から、現地の状況などについて報告をさせていただきます。

○事務局

照明も落として大丈夫ですか。

○小林地域支援課係員

皆さん、こんばんは。地域支援課安全まちづくりグループ防災担当をしております小林と申します。よろしくお願ひいたします。

私は、輪島市の避難所開設支援として1月18日から6日間、災害派遣従事させていただきました。従事期間中のお話を、今日はスライドを交えながら皆様にお伝えさせていただきます。よろしくお願ひいたします。お手元、資料ございませんので、ちょっと電気を消させていただきます。

まずは、被害状況の変化についてですけれども、私たちは大阪市役所から輪島市へバスで向かいました。10名なんですけれども、能登半島に近づくにつれて被災を受けたことが分かる景色に変化していきました。道が破壊されているところや孤立の理由等々いろいろ分かったんですが、最後は輪島市へ抜ける唯一の道を自衛隊がつくってくれておりました、その崖崩れの後、バス1台ぎりぎり入るところを何とか入ったという様子でした。

次に、輪島市内の現状についてですが、私たち、輪島市に到着後すぐに勤務させていただきました、その後24時間勤務をして非番、24時間勤務をして非番といった形で従事しておりました。その非番の日に、輪島郊外を16時間ぐらい歩かせてもらったんですけれども、そこでいろいろ撮影し、今日はあまりご紹介できないんですが、そこで画像を交えて分かったことなど簡単に紹介させていただきます。

次に、避難所についてなんですが、我々大阪市が担当した避難所と、堺市が担当していた避難所も手伝っておりましたので、避難所での医療体制や本部との連絡方法

を、スライドを用いてご紹介させていただきます。

まとめについては、避難者から聞き取ったことや西淀川区で考えられる被害、私が現地で感じたこと等、皆様にお伝えさせていただきます。

最初なんですけど、大阪市役所、ちょっと見にくいですが出発しまして、高速道路で行ったんですけれども、多賀サービスエリアと尼御前で最初に休憩をとりまして、もう1月18日ですから駐車場が一面、自衛隊やら関西電力やら、我々のような災害派遣の車で埋め尽くされておりまして、普通に営業はしているんですが、制服のまま、皆さん、もう一般のお客様がいないというちょっと異様な状況でした。この尼御前も石川に入っているんですが、最後ここは千里浜というところがあるんですけれども、ここの高松で最後に休憩をとったんですが、被害の状況があまり分からなかったんです。

ここから海岸線沿いがもう損壊していて通れないということで、のと里山海道というところ、七尾市というところに向かって行ったんですが、そこから急にもう道路を無理やり走っているんだなというところが分かりました。今日は時間もございませんので、バス内から撮った動画ですが、4車線のうち2車線が崩落しておりましてぎりぎりバスが1台通れるところを、我々運行していたんですが、このような箇所が何カ所かありました。今、輪島市に抜ける唯一の道が穴水町から1本あるんですが、そこを頑張って輪島市に入りました。

次は、非番の日に輪島市街地を視察し撮影したものを、スライドを交えてご説明させていただきます。私は着いてすぐ従事したんですが、輪島市の職員からすぐ引き継ぎを受けました。私は事務方で入りましたので、輪島市の職員の横で受付をずっとしていたんですが、市街地はもうほぼ壊滅しているんですということを伺いました。次に、輪島市の行政職員、約200人ぐらいなんですけど、私が行ったときは212カ所、避難所ができておりまして、職員が足りないというお話をしきりにしてありました。避難者名簿があるんですが、正式なものではなく毎日変化している状態でした。

次に、様々な自治体が職員を派遣しておりまして、この話は次させていただきます。全国の自治体から能登半島に支援がきていたんですけれども、これだけの自治体が来ておりました。我々は輪島市ですけれども、12の自治体で支援をしてたんですが、対口支援と呼ばれる支援でして、総務省が支援すべき市町村ごと、輪島市に総括する自治体を決めます。輪島市の場合は三重県が総括していたんですが、その下に我々が入って、三重県の指導のもと、皆で相談しながら運営を進めておりました。夜は会議をしたり、三重県の方針とか大阪市の方針を聞く会議もありました。

次に、輪島市の現状についてですが、非番の日に過ごす宿の周りですが、私の行っていた宿が、さかしたという輪島高校の隣にある宿ですけれども、奇跡的に残っている民宿でして、私が行ったときはまだ周りにはもうアスファルトもめくれている状態だったんです。で、堺市と一緒に泊まっていたんですけれども、ちょっと動画を見てもらいましょうかね。宿の前に拠点防災備蓄倉庫と呼ばれるものがありまして、文化センターに自衛隊が空輸で運んできたものを保管しているといった、その前でした。

次のスライドなんですが、こちらは輪島市のメインストリートになります。民家は少なく、店舗が多い地域になります。道もよそ見していたら、もう歩けないぐらいでして、有名なあの五島屋のビルも倒れているところもあるところでした。そこから北へ、輪島港のほうに向かって歩くんですが、朝市の横のほうに向かって歩いていた動画です。こちらも同様に隆起、沈降が起こっておりまして、こちらは海岸が隆起している様子ですが、分かりますかね。4メートルぐらい隆起してまして、結果論ですけれども、その4メートルの隆起で津波被害がなかったという輪島市でした。

次が、有名な朝市の被害状況ですけれども、この写真のあたりからもう焦げ臭いにおいが漂っておりまして、車のホイールも溶けていて、火災の悲惨さがとても分かりました。

その次に、海岸線沿いですが、海底が隆起しているのと、道路の損壊がひどい、破損がひどいというところと、あと海岸沿いは家屋の損壊もすごかったです。

こちら、今ご覧になられているのが、海底なんです。これが隆起しておりまして、道路はご覧の状態に入れられない状態でした。家屋も大体はこのように感じで損壊しておりました。

ここからは朝市、先ほどの朝市の場所から輪島市役所を抜けて、あと山手のほう、左の下のほうが山手のほうになるんですが、民家の多い地域になります。川が多くて、山の近くで、民家が多い地域になります。民家は損壊しているんですが、学校とか公共の建物だけが残っている印象でした。川沿いは沈下がとても激しかったです。

こちらは、朝市のところから倒壊している家の横を抜けて南のほうに歩いていったんですが、余震が私の行っている間に20回ぐらいありまして、ちょうどここを歩いているとき、この撮影が終わった後に余震がありまして、瓦が何枚か落ちてきて、「ああ、上も見て歩かなあかんねんな」と思ったときの写真です。

こちらは市街地のほうになるんですけども、地図でいうと左下のほうですが、学校は残っているといた風景が結構続いておりました。ここら辺は唯一停電がなかった地域になるんですが、電信柱が1メートルずつ沈降しているといった、そういった地域でもありました。

途中、輪島市役所がありましたので、いろいろ質問させていただいたんですが、こちらの右の建物が窓口サービス等を行っているところで、少数の職員で、限定されたまちの罹災証明という発行業務を当時やっておりました。建物はこう見えて残っているんですが、隆起したり、この入り口のあたりですけど、1メートルぐらい沈下したりしておりまして、市民の方が入られるところで木とか、そういったもので入れるようにしていました。ここは本来フラットですが隆起しています。

奥の建物ですが、こちらはまた入り口が別でありまして、DPATとかDMATとかお聞きしたことあると思うんですが、緊急医療体制を引くんですね、災害が起きたときに。そちらの本部があったり、あと先ほど説明させてもらった対口支援で、三重県以下11の自治体がここに本部を張っておりました。また、私が一緒に従事して

いた輪島市の職員も24時間勤務の二交代で、2人の職員が行ってたんですが、2人も家が損壊しておりまして、ここに100名以上の方が寝泊まりをされておりました。

あと、ほとんどが二次避難は進んでいたんですが、支援の必要な方、もう二次避難先でもちょっと支援できないなという方の避難所が、福祉避難所がありました。スライドを流していきます。こちらが窓口になります。本当に少数の職員で運営されておりました。ここが災害対策本部ですけれども手前に北海道、奥に三重県がいてまして、私が行ったときはちょうど物資をどう配送しようかといった、そういった会議をしておりました。横で10分ぐらい聞いていたんですが、「なかなか大変だな」と伺いました。

こちらが奥の建物のカフェになるんですが、ここが福祉避難所になっておりまして、撮影許可は頂いたのですがちょっと大きくはできないんですけれども、左の上におられる方は裸じゃないと生活できない方であったり、手前の方は写っていないんですが、頭しか写っていないんですが、絵をずっと見ていないと生活できない方がおられ、D P A Tと呼ばれる緊急、精神の医療チームの方が、交代でスタッフ運営されておりました。

あと避難所についてですが、私の行っていた避難所は消防本部ですけれども、周りに高い建物がなく、皆さんが避難しようとしたときに山が崖崩れで避難できないと、津波が来るぞというところで、ここに400の方が集まって、立って2日間寝ていたそうです。

D P A Tの支援の必要な方がいらっしゃって、私、たまたま福祉の仕事もやっていましたので、「ちょっと服薬をしていないな」というところで連絡をさせてもらったんですが、その連絡もL I N Eチャットのようなパケット通信を使った連絡を輪島市はやっておりました。すぐ医療チームが来てくれて、結局、服薬をしていなくて、服薬指導してくださいという指導を受けました。

これは、避難者の方ですけれども、避難所からお仕事に行かれていたので、

晩に帰ってきて、皆さん、歓談をされている様子です。21時消灯ですけれども、帰る際に、23時ぐらいまでカードゲームを誘われまして、皆さんとカードゲームをして、いろいろお話しさせてもらったんですけれども、この方々皆さん、おうちがない方なんです。でも、もう本当にマイナスなことも言わずに、すごい笑顔で、逆に私が励まされたぐらいで、人生観がすごく変わりました。これが大阪市の派遣、西淀川区と中央区の職員ですけれども、このお二人が輪島市の職員で、お二人ともおうちのない状態でした。

次、大屋小学校になります。こちら、堺市がやっていたんですけれども、2階がノロウイルス患者、3階が新型コロナウイルス患者のいるところで、ここが体育館で80名の方が当時おられました。ノロウイルス患者がいてということで、24時間の医療体制を引いておりました。こちらは、炊き出しもあって、これが物資なんですけども、皆さんが自由に持って帰れるところで、特徴的だったのが要る分だけを皆さん持って帰っていたという印象でした。で、2階のノロウイルス患者が急変したということで、この方、看護師さんですけれども、常に走っておられる印象でした。こちらがちょっと見にくいですけど感染者用トイレで、感染された方のトイレが別にありまして、排便したものを我々職員側が袋で包んで指定された場所に捨てさせていただきました。

こちらが避難所です。2メートル×2メートル、4平米のところに2名の計算で、40ブースあって80名の方が、ここで避難生活されておりました。その避難生活している場所に日赤の人が検診に来られて、皆さんのお体を見ていたんですが、本音は「隠れて感染している人とかを見つけることが重要なんです」っておっしゃっていました。

まとめなんですけれども、避難者の方々に最初困ったこと何ですかというお話で、皆さんおっしゃっていたのが、結構、都会ではない方たちですので非常持ち出し袋を用意されているんですが、玄関先にないので持っていけなかったとおっしゃっていました。あとは、3日間ぐらいは何とか皆さんで生活しないといけないんですけれども、

もう食べ物はどうにかなるけど、水とトイレだけは非常に困ったっておっしゃっていました。あと通電するの、暖をとるのが大変だった、クラスターが心配だったというところですよ。

良かったこともお聞きしたんですけれども、皆さん、揺れがおさまったら家に食べ物を取りに帰って、知らない人とも仲良くなった、水も分け与えて、知らない人と仲良くなったのが良かったと。避難所運営って、もう完全にその200の避難所、皆さん、地域でやっていたんですけれども、ふれあい喫茶などで顔見知りが多いというところもあって、そこが一番の訓練じゃないかなというのは感じさせられました。あと、正月でしたので若者が帰っていたので、いろんな情報があって良かったとおっしゃっていました。

西淀川区で考えられる被害についても、ここは皆さん知っていると思うんですが、津波が来るとなれば川に鉄扉が閉まって、水防団の方が閉めていただくんですけれども、孤立化する地域も間違いなく出てくるというのは考えられます。あと通信手段がなくなって、例えば中島とか佃とか、どうやって情報をとるのかなというところも思われます。ほとんどの区役所職員が、輪島と同じように被災するというところで、どういった支援ができるのかなというのも考えられます。液状化はもちろん考えられるんですが、私が行ってすごく思ったのが、Wi-Fiがすぐつながったそうなんです。最後にお伝えしたいのがパケット通信を使った、普通、ドコモだったらドコモ、auだったらauってなっているんですが、災害時にはその00000ジャパンという形で、全部が使えるようになるんですね。で、今回は1月2日から皆さん解放されて、Wi-Fiで使えるようになっていたとのことですよ。

ちょっと早足でしたが、ありがとうございました。

○大垣議長

ありがとうございました。現場に行ってくださいました。ありがとうございます。4階の防災の担当の方でございます。

それでは、次の流れのほう、よろしく頼みます。

○岡田政策共創課長代理

ありがとうございます。そうしましたら次は、各テーブル、グループごとでお話を始めていただくということになります。

職員はテーブルへの移動、引き続いて話し合いへの参加をお願いしたいと思います。机上には付箋等がございますので、そこで議論していただいた内容を貼りつけていただいて、議論をおまとめいただいて、各テーブル代表者1名から発表いただくという流れになります。

なお、職員は移動・着席後ですが、氏名、活動の時期、実際体験された内容等を書いていただいて、その後、話を広げていただくという形でも結構でございますので、話題に参加いただくようお願いいたします。

それでは、今からグループでの話し合いに移ります。よろしくお願いたします。

〈グループ討議〉

○岡田政策共創課長代理

発表時間が参りましたので、各テーブルにマイクをお回ししますので、発表をお願いいたします。代表の方が発表をお願いします。

○多田委員

お疲れさまでした。この班は、能登半島地震の被災地の今、発表していただいたことと、西淀川の被害想定というのを照らし合わせながら、西淀川はどういう課題があるかなということをもまず話し合いました。

一つは、能登半島の難題点として、道路事情が悪かった。道路が被災してしまって、少ない道路が被災してしまって孤立集落ができて、物資は何かたくさんあったそうなんですけど、あり余るほどあったそうなんですけど、必要なところになかなか届かなかったというのがあって。それを翻って西淀川はどういう状況になるのかって考えてみると、津波がやってきて、津波で浸水してしまうと、小学校とか中学校も被災

してしまって体育館とかああいうところが使えなくなります。物資って避難所に向かって集まってくるものなので、その避難所が開設されていないってなると、じゃあ、どこに物資を集めるんですかと。みんな、マンションの上とか津波避難ビルに分散して避難しているけど、どうやってそれを行き渡らせるかというのは課題ですよ、という意見も出ていました。

そして、西淀川は津波が来るまで110分ぐらいあるという中でも、なかなかその時間で津波想定区域を越えて、もっと内陸のほうに移動することは無理なので、やっぱり西淀川の中で何とかするしかない。津波避難ビルもそうですけど、そういうところを有効活用していくしかないということもそうだし、波、水が引いた後、津波が浸水して大体丸3日間ぐらいは水につかると言われておりますけれども、その間、津波避難ビルの上に避難したとしても、津波避難ビルってマンションの共用廊下とか、どこかのスーパーの屋上とか、そういうところなので、そこで備蓄もない中でどうやって過ごすのか。個人の非常持ち出しの備蓄も絶対そうなんだけれども、津波避難ビルの備蓄というのも課題ですよという話も出ていました。

そして水が引いた後、当然、西淀川だけで避難は駄目なので、いわゆる大阪市を立てている二次避難計画ですね。西淀川だけでも約6万5,000人、大阪市内でも約30万人弱の対象者が今おりますけれども、我々が東淀川区まで逃げるようになったときに、その啓発がなかなか進んでいないよねというところもそうだし、大阪市の二次避難計画って、大阪市中で完結するようにつくられていますけれども、能登半島の例を見る限り、絶対そうはならんだろうと。やっぱり府内、県外も含めてホテルとかいろんなところに二次避難していくことになりますよねというところ。そして能登半島地震では、能登半島が主な被災地で、対口支援で全国から行政職員の方が応援に行くことができたということですが、それを南海トラフ巨大地震に置き換えてみた場合、西日本全域が被災しているという状況の中で、果たして対口型支援が成り立つのかというところも一つ課題なので、できるだけ大阪の中で自助というところも大事

ですよねというところを踏まえた上で、非常に面白いアイデアが出てまいりまして、ぜひ聞いていただきたいんですが、大阪・関西万博、来年ありますね。今どんどん、続々とパビリオンが立ち上がっておりますけれども、その万博が終わった後、そのパビリオンを、今ね、タイプBとかタイプCとか、プレハブ型でいろんなパビリオンが鉄骨で立っていますけれども、そのパビリオンを解体し、西淀川に持ってきて津波避難タワーにすると。そうすれば、これは本物の万博のレガシーになるという、「万博をやったからこそ西淀川区民の命、救われたんだよ」というようなことにするのはいかがでしょうかというところ。そのあたり、ちょっと提案しておきたいなと思います。

うちの班は以上です。ありがとうございました。

○吉見委員

吉見です、お願いします。ここのグループでは、ざっくり防災についてというか、災害のときに困ること、どんなことがあるだろうとか、災害についてちょっとお話ししました。

まず、西淀川区のイメージとして、一般的に災害に弱い、悪いイメージがあるという話が出ました。これは誰がどうというわけじゃないんですけども、今若い人たちがどうなのかって話もあったりしましたが、過去に水害に弱かったというところもありましたので、実際に災害に弱いイメージがあるので、今、もし対策をここまできちんとできているとか、こういうところ大丈夫だよというようなところがあれば、きちんと正しい情報を発信していくことが大事なのかなと話が出ました。

実際に、どういったことが困るのかなと考えてみたんですけども、例えば、僕は介護の仕事をさせてもらっているんで、寝たきりの方で避難所まで避難できない方に対してどのようにアプローチができるのかなということであったり、外国人の避難所されてきた方に対しては食事制限のある方があったり、時間によっては礼拝をしないといけないという方もいらっしゃると思うので、そういった方々への配慮も必要になってくるのかなと思いました。

先ほど、小林さんのお話のときにもありましたけども、感染症対策としていろいろな対策をされていると思うんですけども、実際にその感染を見つけ出すというところで、体調管理の方法として検温が必要になってくると思うんですけども、そういったときの体温計であったり、そういったところの検温を毎日しているのかなとかということもちょっと不思議に思いました。

実際におのおのが被災したときに、家が仮に潰れてしまったときに、それをじゃあ誰が直してくれるのかなとか、これから復興、自分の生活を守っていく上で誰がどういう過程で直していってくれるのかなというところまでのご案内とかがあれば安心して住めるのかなと思いました。

災害時の情報の伝達というところで、こういう災害チームがあって、トップダウンでいろいろと避難チーム、災害対策されていると思うんですけども、実際にボランティアに来た人たちにも正しい情報がきちんと共有できていれば、避難している人たちも、より安心して復興に向けて生活していけるんじゃないかなという話が出ました。

以上です。

○竹内委員

すみません、ここの班は被災地に支援に行かれた方のお話をずっと聞いていて、すごいためになって、「そういう大変なことがあったんやな」というのを聞きしながらだったので、それぞれが気になったことをすぐに質問してしまって、ちょっとまとめてという感じではなかったんですけど、行かれた中で避難所のプライバシーが守られていないとか、そういったところも挙げられていましたし、先ほども言われていたように、高齢者の逃げ遅れの方もいらっしゃるし、逃げられない方とかもいると思うんで、そういう方のフォローというか、一緒に逃げられる、そういった取組というか、日々の中でもやっていないといけないんですけど、そういうところもちょっと気になるなというのがありました。

長期で避難される方は、何回か大きな地震があるので、心のケアをすごい言われているので、そういったところのケアの入り方とか、あと仮設住宅が準備されて、やっと自分たちの生活が多分、軌道に乗り始めると思うんですけど、そういったところの進み具合とかそういうのも気になるかなというのと、あと自分たちの本当に今後、未来に対しての生活をどう立て直していくかという支援も充実させてもらったほうがいいのかなというのがありました。

医療とか治療が必要というのはどことあると思うんですけど、初めにお薬とかが無料でどこでも受けられるとか、そういうのもあるみたいなんで、お薬手帳は持っていってくださいとか、そういうアナウンスとかも結構、最近言われているかなと感じます。

あとは、このいろんな体験をずっとされてきているので、今後の若い人に伝えていけないといけないなという、その気持ちをみんなで確認して終わります。

○倉方委員

この班では、阪神・淡路大震災や輪島市での支援のご経験を聞きながら話を進めました。西淀川は川に囲まれてる地域で、津波に加えて、水害の問題、液状化であったり、水道が使えなくなったりといった問題があるよねと、そこで孤立しちゃったらどうするんだろうという話が出たり、あと避難場所が各地域、この地域やったらここに逃げてくださって指定されていると思うんですけど、そこが果たして適切なのか、例えば御幣島の2丁目であれば香叢小学校に逃げるようになっているそうなんですけど、それだったら区役所に逃げたほうが情報もあるし、物資もあるだろうし、助かるためには確実なのではないかということで、現実的に避難するときその設定が適切なかどうかという課題も出ました。

あと輪島市の支援の経験では、2個の避難場所があって、1個では、顔の見えるというか地域のつながりがある地域の避難場所で、もう一つはそこが希薄な場所で分かれていて、そのコミュニティができているところはお互いの顔も知っていて、話

も通じるというか、話ができる関係だったんで心が落ち着くような瞬間もあったけれど、コミュニティが希薄な場所では隣の人が誰かも分からないし、どんな人かも分からないから落ち着かないというか、そういう何か災害の不安と別の不安も生まれてくるよねという話も出ました。町会の重要性って話が出たんですけど、顔の見える関係づくりというか、今、個人情報で隣に住んでいる人も分からないみたいなことも往々にしてあると思うんですけど、そういう状況やと、そういう避難のときにも誰が避難できていて、誰が避難できていないのかということまでも分かりにくくなるので、そういう顔の見える関係性づくりとかも課題に上がりました。

以上です。

○藤江委員

こちらのチームは、僕が発表しますけれども、僕はほとんど喋ることもできず、すごい話が盛り上がったんですが、発表だけ回ってきております。

ここも、ほかのグループと同じように高齢の方とか要支援の方、外国の方が問題になるんじゃないかという話がまず出て、何となく食料は冷蔵庫に残っているかもしれないから何とかなるかもしれないけど、そういう要支援の人じゃないと食べられないものとか、外国人の方が食べられるものとか、あと薬については、やっぱり各自で確保しておいてもらわないとなかなか難しいよねということになり、まずは各自の防災力を上げるというのが一つありますよねということになりました。その上で先ほどからも出ていますように、西淀川区は孤立するので、外から支援が来ないという状況に絶対なると。なので、地域でしばらく踏ん張るしかない。そこをどうしようかと言ったときにまずいなとなって、やっぱり若い人に地域に関わってもらうのがまず要るのではないかと。そこで、学校での防災教育、福祉教育もあわせて子どもたちに見せることで、子どもと親御さんが関心を持って地域に関わってもらえるようになるのではないかと、そういう見せることが大事じゃないかということになりました。

その上で、外から先ほど区役所の方が言ったように、よそから支援が来ますとい

ったときに、その人らが地域ですぐに動けるようにしておかないといけないということで、地域の中での顔見知りになっておくとか、災害直後に声かけをして、どこで困っている人がいるかぐらいは分かっておいて、来た人がすぐにサポートしてもらえりようなことにおかないといけないね、というところまでいいですか。在宅で避難している人が多分たくさんいると思うので、そういう方にはなかなか声が拾えないので、頑張って声をかけないといけないなということになりました。

以上です。

○大垣議長

ありがとうございます。能登のことをお話ししていただきまして、グループ討議という形をさせていただいたんですけど、能登のこともありますが、この西淀川のことにもそれに対応して考えていく必要があるかなと思っておりますので、またよろしくをお願いします。能登半島地震については、あまりコマーシャルすると怒られるんですけど、大阪市の連合振興町会といたしましては、義援金を、とりあえず24区を足して全部で100万円寄贈しましたので、日赤を通じて能登へ送るということをしておりますので、前向きの形でこうしてやっておりますので、みんなで頑張っていってほしいかなと思っております。

そしたら、次にいきましょうか。

○岡田政策共創課長代理

それでは、資料5でございます。新たな「西淀川区将来ビジョン」の策定についての説明でございます。資料5をご覧くださいよう、お願いいたします。資料5でございます。将来ビジョンにつきましては、区長が区内の基礎実行政を総合的に推進していく上で、地域としての区を目指すべき将来像、またその実現に向けた施策展開の方向性等を取りまとめ、区民の方々に明らかにするものであります。先ほどご紹介しました運営方針との関係性でいきますと、運営方針は将来ビジョンで示された施策展開の方向性に沿って年度ごとの施策事業の取組を明らかにする単年度ごとのアクション

ョンプランということになります。

参考資料としてご用意しておりますが、直近の「西淀川区将来ビジョン」は平成31年4月に策定されまして、5年が経過しております。この間、様々な社会情勢や市民、区民のニーズが変化しておりまして、新たな課題解決に向けた取組の必要性とともに新たなニーズや地域課題の変化に迅速に対応していくため、将来ビジョンの見直しを行います。今後、令和7年度から令和10年度までのおおむね4年間を見据えまして新たな「西淀川区将来ビジョン（2025－2028）」を策定してまいります。

お手元の資料でございますが、次期将来ビジョンの策定のスケジュールにつきましては、その表に記載のとおり、直近については7月4日の令和6年度第1回区政会議におきまして策定に向けてのグループ討議を行う予定にしております。その後の区政会議におきましてご審議いただきまして、ブラッシュアップした将来ビジョン（案）を公表しまして、パブリックコメント手続を経まして、そこで出た意見等も反映させまして、来年2月頃に新たな将来ビジョンを確定、公表する予定でございます。

繰り返しになりますが、詳細につきましては次回の区政会議で説明をさせていただきます。

説明は以上でございます。

○大垣議長

ありがとうございました。では、ここで私から、その4年間のビジョンのお話の中の1つ、2つを、3つぐらい言わせていただきたいなと思っております。

まずは1つ目ですけど、パンフレットの中に1つあったと思いますけど、矢倉海岸の桜まつりで、3月23日の土曜日に、緑陰道路のところに矢倉海岸があるんですけど、そこに行くまでの道のところに桜の木を、地元の会社が植えてくれたというようなことがありましてね。それが咲き誇ってきておりまして、ボランティアでお掃除させていただき、きれいにして、今回ここでイベントを実施しようかなと。100周年記念の一環としてやろうとしておりますので、この日が温かったら散歩がてら来てほし

いかなと思います。桜の木が「つぼみ固し」ぐらいかも知りませんが、この堤防の上のところでキッチンカーも7台ぐらい呼び、そこで演奏もし、いろいろなことをするイベントを一つ、100周年記念ということで行っていきたいなというものでね。矢倉海岸でコンサートを前回やらせていただいたんですけど、あっちのほうまで目を向けていくというようなことをしていますので、散歩がてら寄って行ってほしいかなと思います。それが1つ。

2つ目は、今も言われていたことで、今度は緑陰道路のことで、50年が経っておりますけど、あの舗装の面が本当にもう傷んでしまったので、ここで新しく舗装をめぐっていただいて、新しくやり変えようというようなことで、50年ぶりにやるということで、この話も議員の先生方もお手伝いしてくれましてね。予算取りもすごいことをしまして、それを取りましたんで、4年をかけてやっていこうかということ、100周年記念という名目を打ちながら、また行政とも考えながら前向きにしております。

それで、3つ目がまたありまして、発表させてもらいます。というのは、2号線の下を緑陰道路が通っていますね。あそこ、自転車の通るのが1車線です。1車線を両面通行していますが、もう時代が来て、自転車が本当によく通るようになってきましたので、あそこにもう一本、空きの通路があるのを開通して、2車線にしていこうという試みを、まだ行政と地域で考えていっているということで、100周年を大事にしながら、この際何でもやってみようかという気持ちで前へ進めて行っておりますので、よろしくをお願いします。

今回も、こうやって集まってくださった方々は前向きの形でお話をしてくれるメンバーばかりそろっておりますので、これからもいろいろな話をさせていただきながら区政会議を進めていって、また実りのあることとお話ししていければいいかなと思っております。

ちょっと長々となりましたけど、これを言いたかったんです。すみません。

それでは、災害地に応援に行ってくださいました職員に敬意を表して、ありがとうございました。

長々、僕ばかり喋っていて大変申し訳ないんですけども、出席いただいております区選出の市議員さん、府議員の皆様から、意見をお願いしたいなと思っておりますけども、市議員からお願いしたいと思います。先ほどまで、佐々木先生が来ておられたんですけど、ご用があったということでお帰りになりました。すみませんけど、それでは山田はじめさんからお願いいたします。

○山田はじめ議員

お疲れさまでございました。今ほどご指名をいただきました、山田はじめでございます。

まずは、今日は安全まちづくりグループの小林さんの報告ということで、それを受けての討議だったわけでございますけど、西淀川区は防災に関する意識が高いので、常にこうした区政会議の場でも議論がなされてきたところではありますが、今回の能登半島地震を受けての経験をもとにまた議論をしていくということが、より様々な議論が深まって良い企画だったのかなと思いつつ、拝見をさせていただいていたところでございます。

そして今ほど、ちょうど市会も予算の委員会ということで、各常任委員会に分かれて、様々な議論を昨日まで、木、金、月、火と集中して行うということがあったんですが、大垣議長からもお話があった大野川緑陰道路についても、私からも市会で少し確認をさせていただきまして、今、議長からおっしゃったような中身については私からも建設局に「きちんとやってくれるね」ということで確認をさせていただきながら。このハード面の整備はそれで一つ進んでいくんですが、ソフト面の整備、ソフト面の魅力の充実というところも、この区政会議でも、これまで議論をしていただいているところですが、改めてこの区政会議の皆さんの意見を反映しながら、より一層の魅力向上に取り組んでいきたいというようなことで区役所からご答弁

をいただいておりますので、またこの区政会議の議論も来年度以降も深めていっていただきたいと思います。

そして、西淀川区の将来ビジョンの策定という時期に来ているということも触れられておられましたけれども、これはいわゆる民間でいうところの中期経営計画というような、そんなイメージのものになりますので、民間の会社で言いますと。皆さんからしたら「何なんだろう」という思いをお持ちかも知れませんが、意外に重要なものがございますので、配付資料を見ますと、かなりの議論の回数を重ねて前回のものをつくられたという記録も、後ろの18ページなどを見ますと残っているわけがございます。

そして、すみません、話がいろいろ飛びますけれども、私は市政改革委員会に所属していたんですが、様々な会派の議員がおられまして、その議論の中で「区政会議が少し形骸化しているんじゃないか」という意見も一部の議員さんから出ていたところもあったんですが、非常に来年度、重要な時期に差しかかってきておりますので、区役所の皆さんにも、よりこの区政会議が充実したものになるように工夫もしていただきながら、そしてこのメンバーの皆さんのより一層の活発なご議論を、私からもお願いをさせていただきたいなということで、簡単ではあまりないんですがコメントとさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

○大垣議長

ありがとうございました。続きまして、山田かなさんからよろしく申し上げます。

○山田かな議員

こんばんは。遅い時間に、また寒い中、皆さん、本当にお疲れさまでした。先ほど、市役所の方も区役所の方も被災地に支援に行かれていまして、ありがとうございます。防災をきっかけに、西淀川は横の連携があるのかなというのをつくづく感じる場所なんですけど、今、府と市と一緒に運営しています防災アプリの登録、ダウンロードは大阪府内でも5%ぐらいしかないの、ぜひ、ここの私たちからダウンロード

して、周りの方にも、5人にでも勧めてもらおうと、もっと増えていくのかなと思いました。

あと、もう一つなんですが、このビジョンもなんですけども、企業では先ほど、はじめ議員もおっしゃいましたが、ビジョンを重ねるってとても大切なことだと思いますので、ぜひシンプルで良いビジョンができて、西淀川区民が簡単に共有できるようなビジョンができることを祈っております。ありがとうございます。

○大垣議長

ありがとうございました。続きまして、府会議員さんの中川議員さんから、よろしくをお願いします。

○中川議員

皆様、こんばんは。府会議員の中川誠太です。夜遅くまで、本当に皆さん、お疲れさまでした、ありがとうございました。今日のいただいたご意見も、しっかりと頂戴しながら、府政でもしっかりと進めていきたいなと思っております。

また、区役所の方が能登半島の支援で、カウンターパート方式で輪島市に行ったという話がありましたが、これによって課題もしっかりと情報収集していただいて、府で、市で、市町村を含めて何ができるかということをしつかりと検証しながら、今後起き得る、その南海トラフ等々に起きる地震などに対して、しっかりと対策を今からやっっていこうという話になると思います。

府でも、例えばトイレの方式、今いろいろ話題になりましたが、トイレは和式便座が結構多いという現状もあります。府においても、この和式のトイレを洋式に変えていく事業というのは大分進んでいってはおるんですが、まだゴールが見えない中で進めていっている状況になりますので、そういったところもしっかりとゴールを決めて洋式化していくということを進めていきたいなと思いました。

また最後に、今年の4月、来月からは皆さんご存知かもしれませんが、元西淀川高等学校を活用して出来島支援学校がいよいよ開校されます。あそこは知的障がい者

のこどもたちが通学する学校になるんですが、一番重要なところは、もうほとんど99%は洋式化でありまして、体育館ももちろん一般的にも開放はしていくんですが、避難所にもなり得ますし、また福祉避難所としてもしっかりと開放していくという話になっております。福祉避難所というのが、まだまだ足りてないという状況もありますので、府ができるところでしっかりとそういったことを、地元の皆さんも避難する場所としてしっかりとやっていきたいなと思いますので、またいろんなご意見を聞かせていただきながら、これから防災対策をしっかりと進めていきたいなと思いますので、引き続きどうぞよろしくお願いたします。ありがとうございました。

○大垣議長

ありがとうございました。本当に、3議員の先生方、本当に力強い言葉をもらいました。ありがとうございました。

続きまして、区長から本日の会議の総括のコメントということでよろしくお願いたします。

○中島区長

どうも皆さん、本日はご参加いただき、また活発な議論をいただきまして本当にありがとうございました。

今回の能登半島地震を受けての防災をもう一度、再検討するということなんですけども、皆さん、多くの方から出ていた言葉で、顔の見える関係、地域のつながりというようなことは、いろんなところで聞かれたかなと思います。防災といえども、地域のつながり、町会の加入率というところもございますし、そういうところが全部結びついてくるのかなと。顔の見える関係であれば、個別避難計画というところもスムーズにいくでしょうし、何についてもやっぱり顔の見える関係をいかにつくっていくかということが大事かなというのを、私も再認識したところでございます。

それから、能登半島地震につきましてはですね、皆様もそうだと思いますし、私もそうですけども、「改めてここがもう少し考えないといけないな」というところが

出てきたのかなというように思います。この辺は、地域、また役所も、ともに一緒に、もう一度、再検討。この辺は変わって、もし災害が来ても安全・安心はかなり確保できるというところを検討していかないといけないのかなと思ったところでございます。本当にどうもありがとうございました。

それから、ちょっと私事なんですけども、今年のこの3月の末で西淀川区長の任期が終わります。区政会議の場では最後となりますので、本当に皆様にはいろんな場で議論にお付き合いいただきまして、本当にどうもありがとうございました。そして、まだまだ不十分なところはたくさんございますけども、次の区長にバトンをつないでいきたいなという思いでございますので、ぜひ西淀川がさらに良い、素晴らしいまちになって、「住むなら西淀川やろ」と言われるようなまちをめざして、私も陰ながら応援していますし、ぜひまたどこかで寄せていただきたいと思いますので、ぜひ西淀川を素晴らしいまちにさせていただきたいと思います。本当にどうもありがとうございました。

(拍手)

○大垣議長

ありがとうございました、本当にありがとうございました。それでは、その他ということで、事務局からのご案内、よろしく頼みます。

○岡田政策共創課長代理

それでは、冒頭ご案内いたしましたとおり、お手元の資料6、区政会議や区の取組に関するアンケート、ご提出いただきますようお願いいたします。出口にて回収をさせていただきます。

なお、次回の区政会議は7月4日木曜日、18時30分から予定しておりますので、よろしくようお願いいたします。

○大垣議員

事務局、ありがとうございます。それでは最後に、副議長からご感想をまとめて

お願いします。

○矢口副議長

矢口でございます。本日はお疲れさまでございました。まず、被災地に応援に行っていたいただいた職員の方々、本当にご苦労さまで、お疲れさまでございました。

私たちは本当に、災害に対して課題があるなって思いつつ「どうしたらいいのかな」でまだ終わっていたと思うんですけれども、今回行かれた方の生の声、動画と写真ですね、本当にもう衝撃で、危機感と不安を覚えました。グループでお話したこともあるんですけれども、やはり個人の力をまず高め、自分たちが危機感を持っているということを自覚し、その危機感を自分の力として、まず変えていかないといけないなと思いました。

ここに集まっているの方々、皆様は、個人の力を高めるとともに、人のために支援していける方々だと思っております。ぜひこの西淀川のために個人の力を高め、そして皆様のために、ぜひこれからもよろしく願いいたします。

本日は本当に良い会議だったと思います、ありがとうございます。

(拍手)

○大垣議長

それでは、もうこれで終わりますでしょうか。ご苦労さまでした。